

ふるさと力「ここで生きる」ことに誇りと自信を取り戻す ニッポンの暮らしの温故知新



「よく森を残すとか自然を残すとかいうけれど、僕にとっては森や自然より『古い時代のもの』という感じがする。親の代からのものを残すと自然に森がついてくる感じがする。だから森を残すというよりは、たぶん昔の人と一緒に何かを残していることなのかなあと思う」

「今の時代って、みんな今のことしか見えないじゃないですか。横のつながりはあるけれど、五〇年先、一〇〇年先を縦に考えている人はあまりいない。だからこういう木や家は、戦前から今、うまくすればこれから五〇年先、一〇〇年先も存在しているかもしれない。すると、そういうものが縦の軸に急に入ってくるという気がする」

これは、東京都心の世田谷で相続税対策から土地を手放さねばならなくなったが、環境共生型集合住宅「

新しい「ふるさと」を創る知恵を紡ぐ 暮らしと環境の百の知恵



大樹を中心とした中庭で各家庭の子どもが遊ぶ昔の路地裏・原っぱの風景が甦り、「子育てがラク」というおまけまでついてきたとい

高気密住宅がつくれなかった昔の村は「依存型共生」であり、近代住宅は「自立型孤立」だった。これから現代の建築技術を生かして「自立型共生」が可能なのだというのが著者の主張で、これは「昔に帰れ」式のノスタルジーではなく、

自分も地域もトクをする新



もみすりりと唐箕選（『日本農書全集』②『絵農書 二』より）

吹の花の咲くころ、田の苗代に種子をまきます。うの花が開き、ほととぎすがひと声鳴き渡るころ、田に刈敷きを入れ、農夫が田に出て耕します。そのためほととぎすを勧農鳥

の生まれた在所がいちばんよい。（『耕作断』農書第一巻・青森）これは日本の最北端、当時としては辺境の地といえる。そのころの農家が書き残したうちがいちばんだなあ」と

貧しいから夢と誇りがあつた 高度成長が吹き飛ばした日本の原風景

「写真ものがたり 昭和の暮らし・全5巻」は、日本列島が高度経済成長の

本列島が高度経済成長の大波に覆われ変貌する以前の昭和20年代から40年代初期に撮影された庶民の営みや日常風景を、「農村」「山村」「漁村」と地域空間別に分け、民俗学写真家の須藤功がその写真の背景にあるものを綴ったものである。

まだ車も家電製品も少なく、人々は体を使って働き、地域の自然を生かして生きてきた。昭和の暮らしは、農

「写真ものがたり 昭和の暮らし・全5巻」は、日本列島が高度経済成長の大波に覆われ変貌する以前の昭和20年代から40年代初期に撮影された庶民の営みや日常風景を、「農村」「山村」「漁村」と地域空間別に分け、民俗学写真家の須藤功がその写真の背景にあるものを綴ったものである。

まだ車も家電製品も少なく、人々は体を使って働き、地域の自然を生かして生きてきた。昭和の暮らしは、農

「写真ものがたり 昭和の暮らし・全5巻」は、日本列島が高度経済成長の大波に覆われ変貌する以前の昭和20年代から40年代初期に撮影された庶民の営みや日常風景を、「農村」「山村」「漁村」と地域空間別に分け、民俗学写真家の須藤功がその写真の背景にあるものを綴ったものである。

まだ車も家電製品も少なく、人々は体を使って働き、地域の自然を生かして生きてきた。昭和の暮らしは、農

「写真ものがたり 昭和の暮らし・全5巻」は、日本列島が高度経済成長の大波に覆われ変貌する以前の昭和20年代から40年代初期に撮影された庶民の営みや日常風景を、「農村」「山村」「漁村」と地域空間別に分け、民俗学写真家の須藤功がその写真の背景にあるものを綴ったものである。

まだ車も家電製品も少なく、人々は体を使って働き、地域の自然を生かして生きてきた。昭和の暮らしは、農

「写真ものがたり 昭和の暮らし・全5巻」は、日本列島が高度経済成長の大波に覆われ変貌する以前の昭和20年代から40年代初期に撮影された庶民の営みや日常風景を、「農村」「山村」「漁村」と地域空間別に分け、民俗学写真家の須藤功がその写真の背景にあるものを綴ったものである。

まだ車も家電製品も少なく、人々は体を使って働き、地域の自然を生かして生きてきた。昭和の暮らしは、農

「写真ものがたり 昭和の暮らし・全5巻」は、日本列島が高度経済成長の大波に覆われ変貌する以前の昭和20年代から40年代初期に撮影された庶民の営みや日常風景を、「農村」「山村」「漁村」と地域空間別に分け、民俗学写真家の須藤功がその写真の背景にあるものを綴ったものである。

百の知恵双書 第1期

全20巻 発行・O.M出版株式会社 B5変形判、上製、平均168頁 ●各2800円

001 棚田の謎 田村善次郎 著 T.E.M.研究所著

002 住宅は骨と皮とマシンからできている 伊藤雅春・大久手計画工房 著

003 目からウロコの日常物観 伊藤雅春・大久手計画工房 著

004 時が刻むかたち 奥村昭雄著 夢の動き、茨の仕掛け。風土に合った屋

005 参加するまちづくり 伊藤雅春・大久手計画工房 著

006 洋裁の時代 小泉和子著 洋裁の腕が支

007 樹から生まれる家具 奥村昭雄著 木の良さと美

008 まちに森をつくらせて住む 伊藤雅春・大久手計画工房 著

009 建築家の家具作り 奥村昭雄著 建築家の家具作

010 40年の軌跡 奥村昭雄著 奥村昭雄著



1970年の大阪万博

★NHKの膨大な映像遺産を凝縮 ビデオ 日本映像の21世紀

明治、大正、昭和、平成。激動の20世紀を47都道府県ごとに編集し、各都道府県の成長を克明に収録。NHKで50回にわたり放送された、「日本映像の二〇世紀」待望のビデオ化。NHKの膨大な映像資料が凝縮され、貴重な当時の音声、多数の活字資料も蘇る。世代を超えて語りあえる、時の流れを永久保存した映像大百科事典。

VHS 全50巻（都道府県別編集、北海道・東京・大阪は各2巻）、音楽・千住明、語り・柿沼郭、各巻45分

ラー（一部白黒）●各7350円、揃

価367500円（専用キャビネット

付）

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博

1970年の大阪万博



漁村の家並み（新潟県能生町、昭和32年、撮影・室川右京）

か、その「進歩」の見返りに数多くのものを見捨ててきた。経済的に効率の悪い自然相手の仕事や職人技術、体を動かしてつくる自給的暮らし、生産性の上がらぬ山村や島の暮らし、助け合いながら暮らす地域の絆、人にとって益にならぬ野生の生き物、恵みや神に感謝し祈る行事や芸能……。現在、その「進歩」は「情報化の時代」の到来によりグローバル化し、地球全体を席巻しようとしている。「進歩」するものは脚光を浴び目に見えやすいが、その陰で退歩していくものは目に見えにくい。本写真全集が、見捨ててきたものの生きている、いつの世でも生きている、いこうで変わらぬ、大切なものを見定めるよう求めることを祈りたい。

写真ものがたり 昭和の暮らし

全5巻 民俗学写真家 須藤功著、A.B判・上製、各240頁①農村②山村③漁村④山村⑤山村⑥山村⑦山村⑧山村⑨山村⑩山村⑪山村⑫山村⑬山村⑭山村⑮山村⑯山村⑰山村⑱山村⑲山村⑳山村㉑山村㉒山村㉓山村㉔山村㉕山村㉖山村㉗山村㉘山村㉙山村㉚山村㉛山村㉜山村㉝山村㉞山村㉟山村㊱山村㊲山村㊳山村㊴山村㊵山村㊶山村㊷山村㊸山村㊹山村㊺山村㊻山村㊼山村㊽山村㊾山村㊿山村

と町⑤川と湖沼、4月完結予定 ●各5250円、揃

価26250円